

新たな時代の幕開けに

平成の山田を振り返る

平成31年5月。約30年続いた「平成」の時代が終わり、新たな時代「令和」が幕を開けました。皆さんは、平成にどんな思いを馳せ、令和に何を期待しますか。本町にとってこの30年間は、多くの出来事や変化がありました。広報やまだ5月1日号では、平成の山田町に起きた出来事を年表と写真で振り返ります。あの日あの時を思い返しながらか覧ください。さあ、新時代の幕開けです。

平成年表

平成元年(1989)

5月 町民総合運動公園野球場が完成

平成2年(1990)

8月 青森県平賀町と「友好親善都市」締結

平成3年(1991)

12月 沿岸初の屋内スケート場が浦の浜地区にオープン

平成4年(1992)

7月 鯨と海の科学館がオープン
三陸海の博覧会が共催会場として開幕



「光る海 輝く未来」をテーマに、釜石市、宮古市、そして本町の3会場で開催された三陸海の博覧会。74日間開催され、全体の入場者数は200万5281人、山田会場では延べ25万2110人が入場。来場者は、鯨と海の科学館やマリパーク山田のアトラクションのほか、各種イベントを楽しみました。

鯨と海の科学館。総工費10億1千万円で建設された建物内部には、目玉となる世界最大級の雄のマッコウクジラが組み立てられました。東日本大震災で被災しましたが、平成29年7月に再オープン。さまざまなイベントや企画展を行い、再オープン後から現在までに2万8844人が来館（平成31年3月31日時点）し、町のシンボルとして復活を果たしました。





花まりんでいちご狩り



織笠のあさり祭り



オランダ島まつり
& ビーチフェスティバル



町の一大イベント織笠川「鮭まつり」

大浦漁業協同組合が経営していた定期船「おおうら」は昭和25年からの47年間、海上渡船として、地域住民に親しまれました。大浦地区と山田地区をつないだ定期船は、通勤、通学、通院など、地域になくてはならない生活の足でした。廃止後は、岩手県北バスの路線バスが運行を始め、現在に至っています。



平成5年(1993)

7月 プレスケンス号山田港入港350周年
記念事業を開催

平成6年(1994)

10月 三陸縦貫自動車道山田道路「船越トンネル」が貫通

平成7年(1995)

4月 山田消防署新庁舎が柳沢地区に完成
9月 アメリカ・ワシントン州シアトル市で
境田虎舞が公演

平成8年(1996)

2月 派遣事業で中学生をオランダに派遣
3月 第1回一括研修派遣事業で町民をオランダに派遣

平成9年(1997)

5月 定期船「おおうら」が廃止され、路線
バス運行に
10月 全国豊かな海づくり大会で天皇皇后両
陛下行幸啓、町役場でご昼食・休憩

平成10年(1998)

12月 白石児童館に代わる轟木児童館が完成

平成11年(1999)

1月 27年ぶりに冬の成人式を開催
3月 マリンパーク山田が11年間の営業に幕
8月 ふれあいパーク山田が道の駅に指定
11月 織笠川「鮭まつり」で本州初の川での
サケ一本釣りを実施



町と民間出資による第三セクター「陸中山田マリンパーク株式会社」が経営した遊園地「マリンパーク山田」は、平成11年3月に閉鎖されました。開業した年の入園者は12万人を越えましたが、入園者数減と借入金返済が経営を圧迫しました。入園者数は延べ117万人でした。



町民体育祭



ホタテ河童神社



船越公園



火災で一面が消失した山田地区



津波が押し寄せた八幡町地区



山田上空からの空撮



自衛隊による災害対応

平成23年3月、東日本大震災が発生。最大震度7。本町では大沢で最大震度5強を記録。本町の死亡者数および行方不明者数は825人、約半数の家屋が被災し、壊滅的な被害を受けました。

町は平成23年12月に復興計画を策定。計画期間は平成32年までの概ね10年間とし、まちづくりの方向性などを定めています。

被災後から現在まで、国内外から多くの支援を受けている本町。町民は、その支援に応えるべく、一人一人が前を向いて町の復旧復興に取り組んでいます。

平成12年(2000)

5月 オランダ王国ザイスト市と友好都市締結

12月 山田中学校吹奏楽部がオランダ・アムステルダム市のコンサートホールで開かれた「日蘭交流400周年記念ジャパンナイト」に出演

平成13年(2001)

8月 町のキャッチフレーズが「響きますひと・海・森のハーモニー」に決定

町のキャッチフレーズ「響きますひと・海・森のハーモニー」は、898点の応募の中から決められたんだよ。



平成14年(2002)

8月 三陸縦貫自動車道山田道路が開通

平成15年(2003)

5月 三陸南地震で震度5弱。本町の被害総額は1億2500万円

平成16年(2004)

12月 山田町名誉町民の鈴木善幸元内閣総理大臣が逝去

平成17年(2005)

10月 山田町合併50周年記念式典を開催

平成18年(2006)

11月 県立山田病院が柳沢地区に移転開院

平成14年8月に三陸縦貫自動車道が開通。東日本大震災以降、浸水域を通らずに移動できる命をつなぐ道路として復興のリーディングプロジェクトとして位置づけられ、急ピッチで事業が進められています。平成29年11月に山田宮古道路、31年1月には釜石山田道路の山田南インターチェンジ(IC)から大槌ICまでの区間が開通しています。



盛大に行われた開通式



大沢小学校の海よ光れ



平成9年の行幸啓多くの町民が歓迎



人工芝が敷設された運動公園サッカー場



山田マリンフェスティバルで行われたドラゴンボートレース



オランダとの交流は現在も続いています



陸中山田駅に集まった町民

東日本大震災により駅や線路が被災したJR山田線が、三陸鉄道へ移管され、三陸鉄道リアス線が開業しました。8年越しの悲願に町民は、列車の運行を歓迎しました。2日間にわたって行われた歓迎イベントでは、町内園児やAKB48グループなどによるステージイベントが行われ、開業に花を添えました。

平成28年に天皇皇后両陛下が第71回国民体育大会への臨場と東日本大震災復興状況の視察のために来県。9月29日には本町へお立ち寄りになり、復興状況を視察されました。両陛下の訪問は平成9年の全国豊かな海づくり大会以来で、19年ぶりの訪問を多くの町民が歓迎しました。



来町された両陛下

平成21年(2009)

10月 三陸山田漁業協同組合発足

平成22年(2010)

3月 大沢小学校新聞「海よ光れ」が初の内閣総理大臣賞を授賞

10月 ザイスト市友好関係締結10周年

平成23年(2011)

3月 東日本大震災発生

平成24年(2012)

9月 震災後に休止していた山田祭り復活

平成25年(2013)

5月 観光物産館「とっと」が大沢地区にオープン

9月 戸籍事務が電算化。交付時間の短縮などの町民サービス向上へ。

平成26年(2014)

4月 船越小学校新校舎が完成

平成28年(2016)

7月 ふれあいセンターが開館

9月 天皇皇后両陛下下行幸啓

10月 希望郷いわて国体開催

平成29年(2017)

11月 三陸沿岸道路山田宮古道路が開通

平成30年(2018)

4月 斎場「やまだ斎苑」が新設

平成31年(2019)

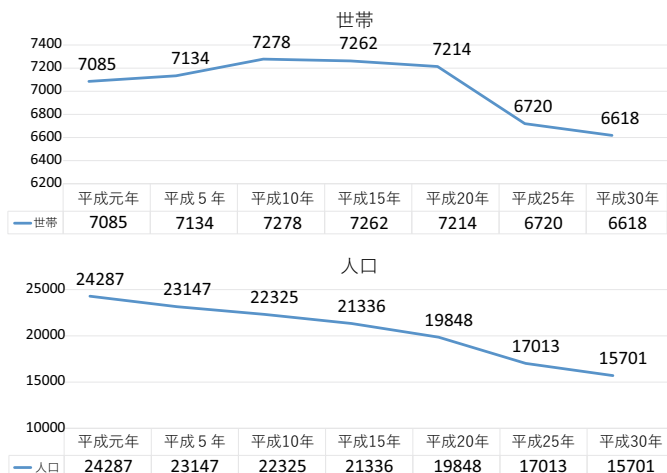
3月 三陸鉄道リアス線が開業



大成功に終わったいわて国体

第71回国民体育大会が岩手県で開催。本町では、高校野球(軟式)競技が2日間にわたって行われました。参加校10校が繰り広げる熱戦に沸いた本町。多くの町民によるボランティアの協力が、国体成功の原動力となりました。

人口と世帯数の移り変わり



人口が減って
いっているね。
町に活気があ
ふれるような
工夫が必要だ
ね。

